

玄関の上の星形の灯



1号館を正面側から一步入ったところの天井には星形を2つ重ねた灯があります。当時、こうした文様が流行っていたようです。廻り縁にはヨーロッパの伝統的なレリーフ(浮彫の細工)が装飾されています。

3階 踊り場の天井



正門側から入り2階から3階に上がった踊り場の天井のデザインも当時のまま残っています。照明器具の廻りには竣工当時の石こうによる浮彫の彫刻(センターレリーフ)が見えます。



マックス・ヒンデル
れきけん建築アーカイブ所蔵

建築家マックス・ヒンデル Max Hinder (1887~1963)

上智大学1号館は、スイス人建築家マックス・ルドルフ・ヒンデルが手がけたドイツ風の学校建築です。ヒンデルは大正から昭和初期にかけて日本各地のカトリック教会を設計しました。

1号館以外で現在も残っているヒンデルの作品は、カトリック神田教会聖堂(東京都千代田区)や、天使の聖母トラピスチヌ修道院(北海道函館市)、南山学園ライネルス館(愛知県名古屋市)などです。

発行・問い合わせ
上智学院 ソフィア・アーカイブズ
TEL: 03-3238-3294 (平日 9時~17時)
E-mail: exhibition_archives@ml.sophia.ac.jp

ソフィア・アーカイブズ
ウェブサイト QR コード



問い合わせ
QR コード



1号館 東京都選定歴史的建造物

建築家マックス・ヒンデルと

1号館

上智大学四谷キャンパスにある1号館は、2024年6月に「東京都選定歴史的建造物」に選定されました。これは東京都景観条例に基づき建設後50年を経過した歴史的価値を有する建造物のうち景観上重要なものとして東京都が選定するものです。本学の建造物として初めての選定となりました。

1号館は1932年に竣工しました。第2次世界大戦中の東京大空襲にも耐え、現在に至っています。1号館やヒンデル建築の魅力を発見してください。



<建物の中を見学する時のお願い>

- ・教室は授業や課外活動等で使用しています。教室内の見学はご遠慮ください。
- ・廊下を見学する時は授業中は静粛にお願いいたします。

廊下のタイルの模様

各階の廊下には鮮やかなえんじ色とクリーム色のタイルを組み合わせた幾何学模様のタイルが敷き詰められています。地下1階と2階、1階と3階が同じ模様です。これもヒンデルのこだわりなのかもしれません。



地下1階



1階



2階



3階



4階

① セットバック

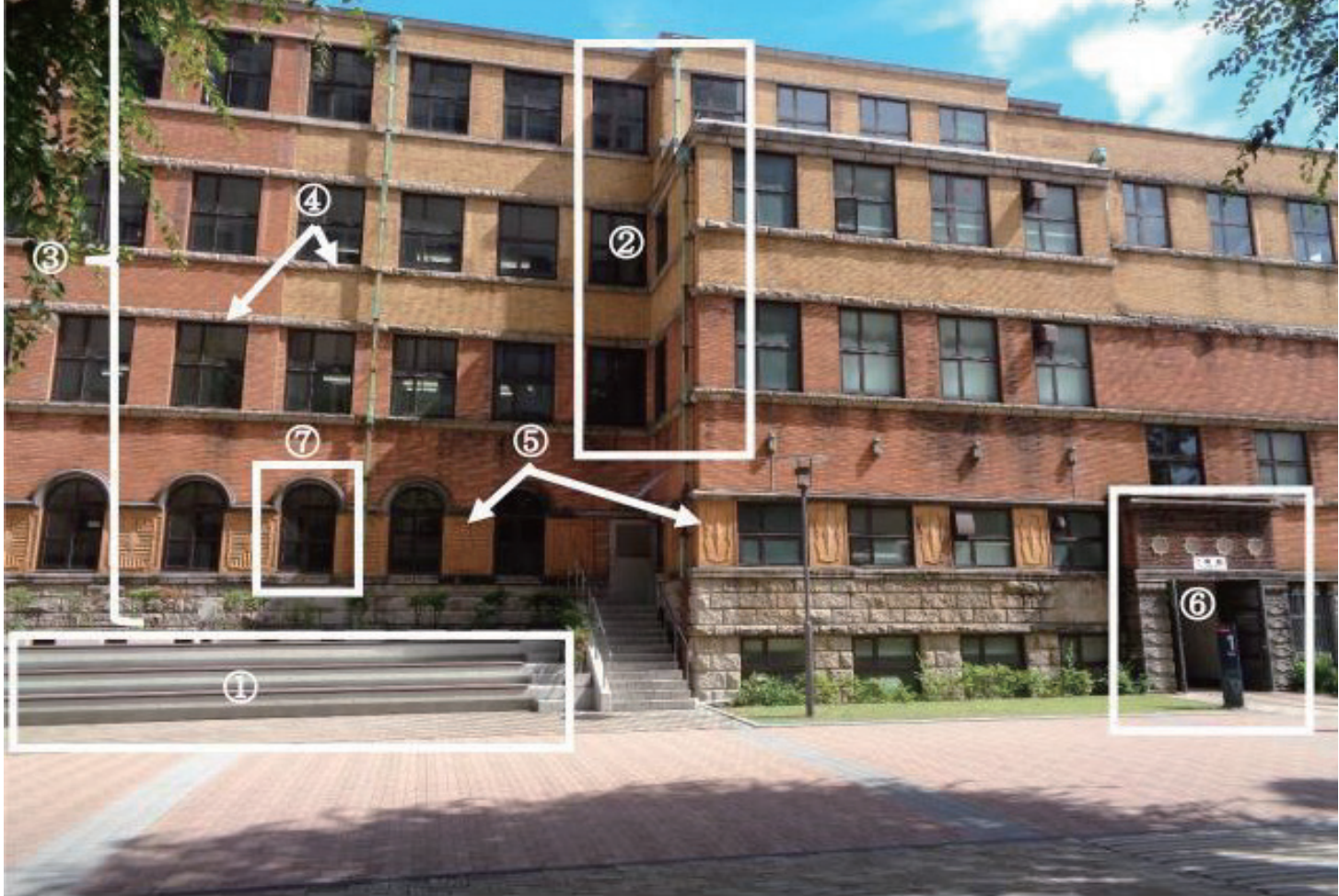
セットバックとは、建物^{たても}を道路境^{どうろきょうかいせん}界線^{かいせん}から後退^{こうたい}させて建てることです。現在1号館^{ごうかん}の北側^{きたがわ}には2号館^{ごうかん}や聖イグナチオ教会^{せい きょうかい}が建っていますが、1号館竣工^{ごうかんしゅんこう}（1932年）当時は辺り一帯^{あた いったい}には民家^{みんか}が建ち並び住^{なり}宅^{じゅうたく}地^ちでした。北側斜線^{きたがわしゃせん}（日照^{にっしょう}権^{けん}）の関係でセットバック^{せったく}した設計^{せきけい}になったと言えます。

② スキップフロア手法

スキップフロアとは、同じフロアで床の高さ^{ゆか}に変化^{へんか}をつけた空間^{くうかん}を指^さします。正門側^{せいもんがわ}から入ったフロアと、階段^{かいだん}で繋がった先の教室^{つかい}が並びフロアとでは、同じ階^{かい}でありながら床の高さ^{ゆか}が異なっています。同様の事例^{どうよう じれい}として旧札幌^{きゅうさつぱろふじこうとうじょがっこう}藤高等女学校^{とうとうじょがっこう}の校舎^{こうしゃ}でもこの手法^{しゅほう}を使^{つか}っていました。この手法^{しゅほう}は、ヒンデル^{くうかん}の空間^{くうかん}の使い方へのこだわりと読み取れます。

③ 3層構造

正面^{しょうめん}から見ると全体の構造^{こうぞう}が3層^{そう}となっています。下から1階層^{かいそうめ}目が基礎^{きそ}となる部分^{ぶぶん}、2階層^{そうめ}目は窓^{まど}と軒^{のき}の水平線^{すいへいせん}を強^{きょうちよう}調^{ぶぶん}した部分^{ぶぶん}、3階層^{そうめ}目が屋上^{おくじよう}に作^{つく}られた部分^{ぶぶん}です。ここには旗立台^{はたただい}が取り付けられています。また壁面^{へきめん}の色^{しきさい}と色彩^{しきさい}によって3層^{そう}に分けることもできます。1階層^{そうめ}目が花崗岩^{かこうがん}、2階層^{そうめ}目は茶色^{ちやうしき}いスクラッチタイル張^ばりの壁^{かべ}、3階層^{そうめ}目となる屋上^{おくじよう}部分が黄土色^{おうどいろ}のタイル張^ばりの壁^{かべ}部分^{ぶぶん}となります。



④ 窓台と軒の帯状の石

アルミサッシがない時代^{じだい}、窓^{まど}の下^{した}の窓台^{まどだい}と軒^{のき}には石^{いし}を張^はることが多くありました。明治^{めいじ}から昭和^{しょうわ}にかけて、格式^{かくしき}のある建物^{たて}には多く用^{もち}いられるスタイルでした。石^{いし}の表面^{へん}がルスティカ仕上^{けず}げ（表面^{けず}を削^{けず}らずにごつごつした仕上^{けず}げ）になっているところから力強^{りききやう}さを感じます。学校^{こうしゃ}の校舎^{こうしゃ}では他^{ほか}にはない事例^{じれい}です。

⑤ テラコッタ製の装飾

低層部分^{ていそうぶぶん}の窓^{まど}の間にテラコッタ^{ねんど す や もの}（赤色^{せきしき}の粘土^{ねんど}を素焼^{すや}きした焼き物^{や もの}）の装飾^{そうしよく}が埋め込ま^これています。2種類^{しゅるい}の意匠^{いしょう}（デザイン）があり、1つは中央^{ちゅうおう}にひし形^{ひしぎょう}を強^{きやうちよう}調^{ちよう}した模様^{もよう}、もう1つは縦溝^{たてみぞ}と横溝^{よこみぞ}からなる模様^{もよう}です。特に写真右側^{しやうしやう}のデザインは他^{ほか}に類例^{るいれい}がない意匠^{いしょう}です。



⑥ 花崗岩の門柱

入り口^{いりぐち}には太^おい花崗岩^{かこうがん}の立派^{りっぱ}な柱^{はしら}が2本^{ふたぽん}あります。この柱^{はしら}に彫^ほられた模様^{もよう}は何^{なに}に見え^みえますか？昆虫^{こんちゆう}のような、魚^{さかな}のような、カメ^{かめ}の甲羅^{こうら}のような……。どのような思い^{おもひ}がこのデザインに込められているのか想像^{そうぞう}してみてください。花崗岩^{かこうがん}の2本^{ふたぽん}の柱^{はしら}の上^{うへ}の水平^{すいへい}な壁^{かべ}には4つ^{よっつ}の星^{ほし}のようなアラベスク^{あらべすく}文様^{もんよう}（イスラム美術^{いすラムびいじゆつ}で用^{もち}いられる幾何^{きかがくてき}学的^{がくてき}な模様^{もよう}の組^{くみ}み合わせ^{あわせ}）の飾^{かざ}り窓^{まど}があり、夜^よになると光^ひを放^{はな}ちます。



⑦ アーチ型の窓

低層階^{ていそうかい}の窓^{まど}は半円^{はんえん}アーチ型^{あーちがた}になっています。これはルネサンス様式^{ルネサンスようしき}の特^{とく}徴^{ていしよく}と言えるでしょう。



監修：川島智生氏（神戸情報大学院大学）